

日本語教育学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
日本語教育学概論	日本語教育の世界	2	小河原 義朗	3	火	3	1
日本語教育学概論	日本語を学ぶ人たちを どう支援するか	2	島崎 薫	4	火	3	2
日本語教育学基礎講読	多文化共生を考える	2	島崎 薫	3	月	5	3
日本語教育学基礎講読	日本語教育文法	2	小河原 義朗	4	月	5	4
日本語教育学各論	日本語学習におけるIT のインパクト	2	難波 康治	集中(5)			5
日本語教育学各論	接触場面のコミュニ ケーションを分析する	2	柳田 直美	集中(6)			6
日本語教育学演習	異文化コミュニケーショ ン	2	島崎 薫	5	火	4	7
日本語教育学演習	話し言葉の教育	2	小河原 義朗	5	金	2	8
日本語教育学演習	地域日本語支援	2	島崎 薫	6	月	2	9
日本語教育学演習	日本語コースカリキュラ ムの評価	2	小河原 義朗	6	火	4	10
日本語教育学実習	日本語コース運営の基 礎	2	小河原 義朗	5	水	3・4	11
日本語教育学実習	日本語コースの運営と 改善	2	小河原 義朗	6	水	3・4	12

科目名：日本語教育学概論／ Teaching of Japanese Language (General Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 3講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：小河原 義朗（教授）

講義コード：LB32302, **科目ナンバリング：**LHM-LIN205J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

日本語教育の世界

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to the Teaching of Japanese as a Second Language

3. 授業の目的と概要：

日本語教育とはどのような分野なのか、さまざまな資料や具体的な現場の声を通じて全体を概観する。同時に、普段当たり前のように使っている日本語、そして実際に生活している日本社会を外から俯瞰して眺め、社会における日本語教育の意義・役割について理解する。

4. 学習の到達目標：

- (1) 日本語教育とはどのような分野であるのか理解し、具体的にイメージできる。
- (2) 日本語教育を通して日本語や日本社会を客観的に捉えることができる。
- (3) 日本語教育の意義、社会における役割について理解し、自分のことばで説明できる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 日本語教育を取り巻く社会情勢
2. 日本語教育とは
3. 日本語教育と日本語
4. 日本語教師の仕事
5. 日本語教育の現場を知る 1
6. 振り返り 1
7. 日本語教育の現場を知る 2
8. 振り返り 2
9. 日本語教育の現場を知る 3
10. 振り返り 3
11. 日本語教育の現場を知る 4
12. 振り返り 4
13. 日本語教育の現場を知る 5
14. 振り返り 5
15. 日本語教育の役割

※ 5回の「日本語教育の現場を知る」では、実際の日本語教育や支援の各現場からゲストスピーカーを招く予定である。そのため、全体の流れも変更になることがある。

6. 成績評価方法：

テストまたはレポート 40%・課題 30%・授業参加度 30%

7. 教科書および参考書：

授業内で指定、または配布する。

8. 授業時間外学習：

指定された資料を読んだり、ビデオを視聴したりする。

9. その他：なし 3回以上欠席した場合は、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

科目名：日本語教育学概論／ Teaching of Japanese Language (General Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 3講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：島崎 薫 (准教授)

講義コード：LB42303, **科目ナンバリング：**LHM-LIN205J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

日本語を学ぶ人たちをどう支援するか

2. Course Title (授業題目)：

How Can We Support Japanese Language Learners?

3. 授業の目的と概要：

現在世界で約 400 万人の人たちが日本語を学んでおり、その増加に合わせて学習者のニーズや生活環境、レディネスなどの多様化が進んでいる。この授業では、様々な背景や目的を持つ学習者を取り上げ、彼らについての理解を深めるとともに、それぞれの学習者の背景や目的、環境に合わせた支援について考える。

4. 学習の到達目標：

- ・様々な日本語学習者についての理解を深める
- ・その様々な日本語学習者をどのように支援するのかについて考えることができる
- ・「日本語教師」に必要な資質や能力について知る
- ・コースデザインに必要な要素について知る

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：イントロダクション、「日本語教師」とは？

第2回：日本語を学ぶ人（日本で生活する外国人）を知る

第3回：日本語を学ぶ人（日本で生活する外国人）への支援を考える

第4回：日本語を学ぶ人（外国にルーツを持つ子どもたち）を知る

第5回：日本語を学ぶ人（外国にルーツを持つ子どもたち）への支援を考える

第6回：日本語を学ぶ人（外国人技能実習生）を知る

第7回：日本語を学ぶ人（外国人技能実習生）への支援を考える

第8回：日本語を学ぶ人（外国人看護師・介護福祉士）を知る

第9回：日本語を学ぶ人（外国人看護師・介護福祉士）への支援を考える

第10回：「コースデザイン」とは？

第11回：グループワーク（コースデザイン）

第12回：中間発表

第13回：グループワーク（改善）

第14回：最終発表

第15回：まとめ

6. 成績評価方法：

授業参加態度 30%、授業での課題 30%、最終レポート 40%

7. 教科書および参考書：

授業内で適宜指示します。

8. 授業時間外学習：

授業内での作業の続きを授業外でする場合があります。

9. その他：なし

科目名：日本語教育学基礎講読／ Teaching of Japanese Language (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：島崎 薫（准教授）

講義コード：LB31506, 科目ナンバリング：LHM-LIN213J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

多文化共生を考える

2. Course Title (授業題目)：

What is "Tabunkakyousei"?

3. 授業の目的と概要：

グローバル化が進む中、国境や文化、言語の枠を超えた人やモノの移動がますます盛んになっている。この授業では、日本や世界の現状への理解を深めるとともに、多文化共生の考え方を学び、その中での社会のあるべき姿について議論を深める。なお、この授業は留学生との国際共修授業となっており、留学生とともにディスカッションや発表などを行いながら学ぶ。

4. 学習の到達目標：

- ・グローバル化が進む中の日本や世界の現状に対する理解を深める
- ・「多文化共生」について理解し、ディスカッションすることができる
- ・ことばや文化の違いに配慮しながら、ディスカッションや協働活動を進めることができる
- ・日本語学習者のコミュニケーションの仕方や学習者とのコミュニケーションの取り方を学ぶ

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：イントロダクション

第2回：ひょうたん島問題（イントロ）

第3回：ひょうたん島問題（ディスカッション）

第4回：日本の現状について知る：外国人労働者（読む）

第5回：日本の現状について知る：外国人労働者（共有する）

第6回：日本の現状について知る：外国人技能実習生（読む）

第7回：日本の現状について知る：外国人技能実習生（共有する）

第8回：日本の現状について知る：外国にルーツを持つ子ども（読む）

第9回：日本の現状について知る：外国にルーツを持つ子ども（共有する）

第10回：世界の現状について知る：移民（観る）

第11回：世界の現状について知る：移民（共有する）

第12回：「多文化共生」とは？

第13回：グループワーク①

第14回：グループワーク②

第15回：発表

第16回：まとめ

6. 成績評価方法：

最終発表 30%、最終レポート 30%、授業への参加態度 40%

7. 教科書および参考書：

授業で扱う読み物は授業内で配布します。

8. 授業時間外学習：

授業内での作業の続きを授業外にする必要があります。

9. その他：なし第2回～第15回は東北大学日本語教育プログラムのレベル5の留学生との国際共修授業となります。第1回、第16回は日本語教育学基礎講読の学生のための授業となります。

科目名：日本語教育学基礎講読／ Teaching of Japanese Language (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 月曜日 5 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：小河原 義朗（教授）

講義コード：LB41505, 科目ナンバリング：LHM-LIN213J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

日本語教育文法

2. Course Title (授業題目)：

Pedagogical Grammar in Japanese language

3. 授業の目的と概要：

日本語を教えるために必要な日本語文法の基礎を理解し、具体的な授業実践と結び付けて考えることを目指す。授業は、毎回提示されるトピックに関する課題に答えるために、次のような活動を通して進める。(1)課題に対する考えをまとめる。(2)個別、または協働して課題を解く。(3)課題に対する解を共有、発表し合い、全体で議論する。(4)課題に対する解について改めてまとめる。

4. 学習の到達目標：

- (1)日本語教育ための文法の基礎を理解し、説明できる。
- (2)基礎的な文法知識を使って日本語を分析することができる。
- (3)文法を日本語教育の実践と結び付けて考えることができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 品詞(1)
3. 品詞(2)
4. 文の構造
5. 格助詞
6. 主題化
7. 自動詞と他動詞
8. ヴォイス
9. テンス
10. アスペクト
11. ムード
12. 複文
13. 文章と談話
14. まとめ：文法を教える
15. 期末テスト

6. 成績評価方法：

期末テスト 30%・クイズ 40%・授業参加度 30%

7. 教科書および参考書：

寺村秀夫(1982)『日本語のシンタクスと意味ⅠⅡⅢ』くろしお出版

8. 授業時間外学習：

毎回授業の始めに前回の内容理解を確認するクイズを行うため、復習して次回授業に臨む。

9. その他：なし 3 回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

科目名：日本語教育学各論／ Teaching of Japanese Language (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：集中(5), 単位数：2

担当教員：難波 康治 (非常勤講師)

講義コード：LB98818, **科目ナンバリング：**LHM-LIN307J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

日本語学習における IT のインパクト

2. Course Title (授業題目)：

How is Information Technology changing Japanese language learning?

3. 授業の目的と概要：

現在、私たちは SNS などを通して個人が常に繋がっているという「情報」社会に生きている。情報通信技術の発達によって、手軽にマルチメディアコンテンツをやりとりできるようになり、また、モバイル端末はそれらのコンテンツへいつでもどこでもアクセスすることを可能にした。それらは、プログラムやコースのような教材としてだけではなく、動画、テキスト、音声などのリソースとしてウェブ上に存在しているように見える。また、それらは、単に所与のものとして存在するだけでなく、ユーザーとしての自分が制作者としてアップロードすることもありうる。

一方、このようなリソースを自在に利用して、自学自習で非常に高い能力を身につける日本語学習者も増えつつある。これは、新しい技術によって学習のあり方自体が変わりつつあることを示している。

さらに、近年では、情報通信の次の波と言われる AR (拡張現実) や VR (仮想現実) などの技術を応用した新しい体験が提供されつつある。

本講義では、これら、これまで日本語教育ではあまり採用されることのなかった、情報通信技術について、それらをどのように理解し、活用するかを主な課題とする。授業は、講義や講読だけではなく、実際にグループでの共同作業を通して、オンラインとリアルを繋ぐという、新しい学習 (支援) システムの考え方を身をもって知ること为目标とする。

4. 学習の到達目標：

- ・語学教育に有用な情報通信技術の基礎についての知識を得る。
- ・情報技術に対応した新しい語学教育の方法論について知る。
- ・簡単なオンラインコンテンツの制作や活用を行うことができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回 イン트로ダクション：学びの変化と情報通信技術
- 第2回 オンラインで学ぶということ ① 教材とリソースの間
- 第3回 オンラインで学ぶということ ② 検索とキュレーション
- 第4回 オンラインで学ぶということ ③ 何を使って学ぶ? : ツールとデバイス
- 第5回 オンラインで学ぶということ ④ MOOCs、反転学習と協働のあり方
- 第6回 オンラインで学ぶということ ⑤ VR : あたらしい体験
- 第7回 オフラインで学ぶということ 技術だけが問題なのか?
- 第8回 プロジェクトワーク準備 ①ブレインストーミング
- 第9回 コーパスを使ってみよう
- 第10回 カタイ話：セキュリティと倫理
- 第11回 プロジェクトワーク準備 ② 制作作業
- 第12回 プロジェクトワーク準備 ③ 制作作業
- 第13回 プロジェクトワーク準備 ④ 発表の準備
- 第14回 プロジェクトワーク発表
- 第15回 振り返り

6. 成績評価方法：

- ・課題 25%
- ・プロジェクトワーク 35%
- ・レポート 40%

7. 教科書および参考書：

- ・事前に Web サイトにて指示

8. 授業時間外学習：

- ・課題への回答 30 分/日
- ・グループワーク 1 時間/日

9. その他：なし・受講者は、事前に以下の Web サイトを参照し、アンケートに回答すること (8月上旬オープン予定)。

<https://hu-ed2014.jimdo.com/>

科目名：日本語教育学各論／ Teaching of Japanese Language (Special Lecture)

曜日・講時：後期集中 その他 連講

セメスター：集中(6), 単位数：2

担当教員：柳田 直美 (非常勤講師)

講義コード：LB98819, **科目ナンバリング：**LHM-LIN307J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

接触場面のコミュニケーションを分析する

2. Course Title (授業題目)：

Analysis of Interaction in Contact Situations

3. 授業の目的と概要：

母語話者と非母語話者のコミュニケーション場面を「接触場面」と呼ぶ。そこでは母語話者同士の「母語場面」とは異なるコミュニケーションの様相が示される。本科目では、接触場面のコミュニケーションを分析するための基礎知識を学び、接触場面のコミュニケーションを分析・発表し、ディスカッションを行う。

4. 学習の到達目標：

1. 接触場面のコミュニケーションの特徴を知る
2. 談話分析の基礎を理解する
3. 接触場面のコミュニケーションの分析ができる
4. 接触場面のコミュニケーションを分析し、共有する

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション／接触場面とは何か
2. 接触場面のコミュニケーションの特徴①
3. 接触場面のコミュニケーションの特徴②
4. 談話研究における研究倫理
5. 談話分析の基礎①文字起こしの方法
6. 談話分析の基礎②録音・録画
7. 談話分析の基礎③文字起こし
8. 談話分析の基礎④分析
9. 接触場面のコミュニケーションを分析する①分析の観点
10. 接触場面のコミュニケーションを分析する②分析手法
11. 接触場面のコミュニケーションを分析する③量的分析
12. 接触場面のコミュニケーションを分析する④質的分析
13. 発表・ディスカッション①
14. 発表・ディスカッション②
15. ふりかえり

6. 成績評価方法：

出席を含む授業態度 50%、期末レポート 50%。
3回以上欠席した場合、単位は取得できない。

7. 教科書および参考書：

参考書

デボラ・カメロン著・林宅男監訳『話し言葉の談話分析』ひつじ書房

中井陽子編著 (2017)『文献・インタビュー調査から学ぶ会話データ分析の広がり軌跡—研究から実践まで』ナカニシヤ出版

J.V. ネウストプニー・宮崎里司共編著 (2002)『言語研究の方法—言語学・日本語学・日本語教育学に携わる人のために』くろしお出版

宮崎里司／ヘレン・マリOTT編『接触場面と日本語教育—ネウストプニーのインパクト』明治書院

柳田直美『接触場面における母語話者のコミュニケーション方略—情報やりとり方略の学習に着目して』ココ出版

8. 授業時間外学習：

毎回の授業内容についての復習、および次回の予習をしてきてください。

9. その他：なし・接触場面のコミュニケーションに興味がある方、これから談話分析をしたいと思っている方、談話分析を基礎から学びたい方を歓迎します。

・出席と積極的な参加を重視します。

科目名：日本語教育学演習／ Teaching of Japanese Language (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：島崎 薫（准教授）

講義コード：LB52405, 科目ナンバリング：LHM-LIN318J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

異文化コミュニケーション

2. Course Title (授業題目)：

Cross Cultural Communication

3. 授業の目的と概要：

異文化コミュニケーションや文化適応に纏わる様々な社会の問題や現状について理解を深めると同時に、課題を見極め、解決方法を検討する活動を通して、自らの主張を発表し、レポートとしてまとめる。

4. 学習の到達目標：

- ・ 自分と異なる世界の見方や考え方に会うことから生じる問題について、それを避けるのではなく、積極的に関わる姿勢・態度を身に付ける。
- ・ その関わりを通してそこにある違いや問題の所在を的確に分析し判断することができる。
- ・ その問題を解決するために、説得力のある主張をもって発信することができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：イントロダクション、「異文化」を体験する

第2回：文化とは何か？

第3回：異文化適応

第4回：コミュニケーションとは何か

第5回：言語コミュニケーション

第6回：非言語コミュニケーション

第7回：ライフストーリーインタビュー

第8回：インタビューの仕方、インタビュー準備

第9回：インタビュー準備、インタビュー練習

第10回：書き起こし

第11回：分析①

第12回：分析②

第13回：分析③

第14回：発表

第15回：振り返り・まとめ

6. 成績評価方法：

最終発表 30%、最終レポート 30%、授業への参加態度 40%

7. 教科書および参考書：

授業で扱う読み物は授業内で配布します。

8. 授業時間外学習：

授業内での作業の続きを授業外にする必要があります。

9. その他：なし

科目名：日本語教育学演習／ Teaching of Japanese Language (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：小河原 義朗（教授）

講義コード：LB55207, 科目ナンバリング：LHM-LIN318J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

話し言葉の教育

2. Course Title (授業題目)：

The teaching of oral language skills in a Japanese language course

3. 授業の目的と概要：

学習者が話すことができるようになるためには、何が必要で、教師は何をすべきなのか、話し言葉の教育の内容と方法について考える。まず、話し言葉、会話の特徴について分析的に概観しつつ、学習者が日本語で話をする可能性のある場面と、その場面でのコミュニケーション行動をリストアップし、その行動で必要となる学習項目を抽出する。そして、そのための様々な学習活動を考え、教材を作成し、実践し、評価する。

4. 学習の到達目標：

- (1) 話すことを教えるための教室活動のバリエーションとその特徴を理解し、説明できる。
- (2) 目的に応じて話すことを教えるための教室活動を考え、教材を作り、実践し、評価することができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 教室活動の実施
3. 教室活動の分析
4. 教材分析 1
5. コミュニケーション活動の実際 1
6. コミュニケーション活動の分析 1
7. シラバスと教室活動の検討 1
8. フィードバックと評価 1
9. 教材分析 2
10. コミュニケーション活動の実際 2
11. コミュニケーション活動の分析 2
12. シラバスと教室活動の検討 2
13. フィードバックと評価 2
14. シラバスの作成 1
15. シラバスの作成 2

6. 成績評価方法：

レポート 30%・課題 40%・授業参加度 30%

7. 教科書および参考書：

授業内で指定、または配布する。

8. 授業時間外学習：

毎回提示される課題に取り組むために、個別、または協働して次回授業のための準備を行う。

9. その他：なし 3 回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。
同時に日本語教育学実習を履修していることが望ましい。

科目名：日本語教育学演習／ Teaching of Japanese Language (Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 2 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：島崎 薫（准教授）

講義コード：LB61205, 科目ナンバリング：LHM-LIN318J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

地域日本語支援

2. Course Title (授業題目)：

Japanese Language Support in Local Communities

3. 授業の目的と概要：

地域日本語支援についての現状を理解し、各チームで設定した課題について PBL (Problem/Project Based Learning) を通じて取り組み、相互に成果を発表することによって、問題解決を試み、問題解決案を提案する。

4. 学習の到達目標：

- ・ 地域日本語支援について理解し、説明できる。
- ・ 地域日本語支援の課題を設定し、チームで協働して問題解決活動に取り組むことができる。
- ・ 設定した課題について解決案を提示することができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：イントロダクション

第2回：地域日本語支援の現状（概観）

第3回：地域日本語支援の現状（事例）

第4回：仙台における地域日本語支援（成人）

第5回：仙台における地域日本語支援（子ども）

第6回：地域日本語教室の見学

第7回：地域日本語教室の見学での経験を共有

第8回：PBL（課題の設定）

第9回：PBL（課題の発表）

第10回：PBL（課題の検討）

第11回：PBL（中間発表）

第12回：PBL（課題の修正）

第13回：PBL（成果発表）

第14回：PBL（フィードバック）

第15回：まとめ

6. 成績評価方法：

最終発表 30%、最終レポート 30%、授業への参加態度 40%

7. 教科書および参考書：

授業内で適宜配布します。

8. 授業時間外学習：

授業内での作業の続きを授業外にする必要があります。

9. その他：なし

科目名：日本語教育学演習／ Teaching of Japanese Language (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：小河原 義朗（教授）

講義コード：LB62406, 科目ナンバリング：LHM-LIN318J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

日本語コースカリキュラムの評価

2. Course Title (授業題目)：

Japanese Language Course evaluation

3. 授業の目的と概要：

日本語コースカリキュラムの評価は、誰が何のために行うのか、コースカリキュラムの中でどのような位置づけにあるのか、何を評価の対象にするのか、どのような種類があるのかについて、学習活動の体験、テスト・ルーブリックの作成、スタンダードの分析等を通じて基本的なことを確認する。そして、コースカリキュラムにおいて、学習目標が評価を規定し、評価が学習活動を規定すること、多面的な評価の重要性を認識することを目指す。

4. 学習の到達目標：

- (1) 言語教育における評価の現況について、基本的な考え方を理解し、説明できる。
- (2) 様々な評価の方法について理解し、説明できる。
- (3) 日本語コースカリキュラムのバックワード・デザインができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. コースデザイン
3. コースカリキュラムの評価(1)
4. パフォーマンス評価
5. コースカリキュラムの評価(2)
6. ルーブリック評価(1)
7. ルーブリック評価(2)
8. コースカリキュラムの評価(3)
9. 伝統的評価と代替的評価
10. テストによる評価(1)
11. テストによる評価(2)
12. スタンダードの分析(1)
13. スタンダードの分析(2)
14. ポートフォリオ評価
15. バックワード・デザインとまとめ

6. 成績評価方法：

レポート 30%・課題 40%・授業参加度 30%

7. 教科書および参考書：

授業内で指定、または配布する。

8. 授業時間外学習：

毎回提示される課題に取り組むために、個別、または協働して次回授業のための準備を行う。

9. その他：なし 3 回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

科目名：日本語教育学実習／ Teaching of Japanese Language (Practice)

曜日・講時：前期 水曜日 3講時. 前期 水曜日 4講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：小河原 義朗（教授）

講義コード：LB53313, **科目ナンバリング：**LHM-LIN319J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

日本語コース運営の基礎

2. Course Title (授業題目)：

Designing a Japanese Language Course

3. 授業の目的と概要：

10月から運営する日本語コースを念頭におきながら、教科書分析および模擬授業とその検討を中心に、以下の内容を扱う。

- 1 言語学習環境としての「教室」のあり方
- 2 学習支援者としての教師のあり方
- 3 シラバス, 到達目標設定, 学習項目設定
- 4 授業見学の視点
- 5 授業活動デザイン
- 6 学習者の日本語

4. 学習の到達目標：

日本語コースを運営するための基礎的な知識と技能を養う。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 日本語初級用教科書の検討 1
3. マイクロティーチング 1, 日本語初級用教科書の検討 2
4. マイクロティーチング 2, 授業活動のデザインについて
5. 日本語初級用教科書の検討 3
6. 模擬授業の実施
7. 模擬授業の振り返り
8. 日本語中級用教科書の検討 1
9. 日本語中級用教科書の検討 2, 授業活動のデザインの検討
10. 中級の模擬授業実施と振り返り 1
11. 中級の模擬授業実施と振り返り 2
12. 授業見学の視点, シラバスデザイン案の作成
13. 教師と学習者のあり方について, コース概要と学習者の募集, 役割分担
14. オリエンテーションの実施プラン作成, ニーズ調査・ブレイスメントテストの検討
15. まとめと6セメスターの日本語コースの開講準備

6. 成績評価方法：

レポート [40%]・出席 [10%]・その他（「発表態度」「クラス貢献度」「ジャーナル」） [50%]

7. 教科書および参考書：

参考書：できる日本語教材開発プロジェクト(2012)『できる日本語』アルク

坂野永理他(2011)『げんき』1・2 ジャパンタイムズ

西口光一(2012)『テーマで学ぶ基礎日本語』vol.1・2 くろしお出版

文化外国語専門学校編(2000)『新文化初級日本語 I』凡人社.

筑波ランゲージグループ(1991)『Situational Functional Japanese』Notes vol.1-3, Drill vol.1-3 凡人社.

川口義一・横溝紳一郎(2005)『成長する教師のための日本語教育ガイドブック 上・下』ひつじ書房, ほか.

8. 授業時間外学習：

日本語の教科書を種々閲読し, 内容や使用法について考える。

マイクロティーチングや模擬授業の教案を立てて準備する。

実施したマイクロティーチングや模擬授業について, 問題点を洗い出し, 改善策を考える。

9. その他：なし日本語教育学概論, 3セメスター開講の日本語教育学基礎講読を含む関係科目を10単位以上履修済みまたは履修中のこと。6セメスター開講の日本語教育学実習も引き続き履修すること。

全回授業に出席し, 積極的に参加すること。

時間外に, 日本語授業見学と見学レポートを課す可能性があるので注意すること。

科目名：日本語教育学実習／ Teaching of Japanese Language (Practice)

曜日・講時：後期 水曜日 3講時, 後期 水曜日 4講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：小河原 義朗 (教授)

講義コード：LB63312, **科目ナンバリング：**LHM-LIN319J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

日本語コースの運営と改善

2. Course Title (授業題目)：

Japanese Language Course: its Operation and Improvement

3. 授業の目的と概要：

実際に運営する日本語コースについて、以下の課題に取り組み、授業活動のデザイン力と実践力を養う。
教室研究と学習者研究の方法の基礎も身につける。

- 1 学習者の学習の状態を的確に把握する。
- 2 異文化接触の場としての日本語授業を意識する。
- 3 自分の教授スタイルに気づく。
- 4 授業を適切に評価し、改善策を講じる。
- 5 授業分析の方法を知り、実践する。
- 6 コース全体を振り返りつつ、報告書を作成する。

4. 学習の到達目標：

日本語コースを運営しながら、シラバスの改変、授業の向上を考え、コース全体の改善を図る力をつける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. インTRODakション, オリエンテーションの結果について
2. 日本語コース運営の方針について, 授業担当について, 授業報告と授業の予定 1
3. 授業報告と授業の予定 2, 教室活動のデザインとバリエーション
4. 授業報告と授業の予定 3, 教室活動の評価：その視点
5. 授業報告と授業の予定 4, 教室活動の評価と改善 1
6. 授業報告と授業の予定 5, 授業分析の方法 1
7. 授業報告と授業の予定 6, 学習者の観察
8. 授業報告と授業の予定 7, 授業分析の結果, 教室活動の評価と改善 2
9. 授業報告と授業の予定 8, 教師行動の分析：ティーチャートーク
10. 授業報告とまとめ, コースの振り返りと評価
11. 教室活動のバリエーション, シラバスの問題点
12. 授業分析の方法 2, 学習者の達成度の評価
13. 授業分析の方法 3, 教師行動の分析
14. 報告書の作成について, 日本語教育学実習全体についての振り返り
15. まとめ

6. 成績評価方法：

レポート [40%]・出席 [10%]・その他（「コース運営」「授業報告」「クラス貢献度」「ジャーナル」「報告書作成」） [50%]

7. 教科書および参考書：

参考書：できる日本語教材開発プロジェクト(2012)『できる日本語』アルク
坂野永理他(2011)『げんき』1・2 ジャパンタイムズ
西口光一(2012)『テーマで学ぶ基礎日本語』vol.1・2 くろしお出版
筑波ランゲージグループ(1991)『Situational Functional Japanese』凡人社。
川口義一・横溝紳一郎(2005)『成長する教師のための日本語教育ガイドブック 上・下』ひつじ書房, ほか。

8. 授業時間外学習：

授業の実施・見学などは時間外に行う。運営するコースは、夜間に片平キャンパスで行う予定。

授業分析についても、具体的な活動は時間外学習である。

9. その他：なし 5セメスターの日本語教育学実習を履修済みのこと。

全回授業に出席し、積極的に参加すること。

教壇実習は夜間に実施する予定。

コースの運営・改善に関わるミーティングなども授業時間外に行われることがあるので、注意すること。